



家族で植樹を楽しむ参加者

平成23年に洞爺湖町と「ほっかいどう企業の森林づくり協定」を締結しているNEC

Cソリューションイノベータ（高浜辰也社長）が、6月7日泉にある町有地で、同社の社員、家族ら約100人が参加して、アカエゾマツ400本を植樹しました。

協定では、期間内の5年間に2,000本のアオダモ、アカエゾマツを植樹することにしています。

家族連れの参加者は、「どのように木が植えられているか勉強になる。子どもたちには、良い機会となりました」と植樹を楽しんでいました。

NECグループ泉の町有地で植樹 社員ら100人で400本

郷土の歴史を学習 史跡巡りウォークラリー

6月7日、2014とうや湖GENKIDS第1回史跡めぐりウォークラリーが行われ、約5kmのコースを散策し、郷土の歴史を学びました。参加者は17人。

テーマは、「虻田の縄文遺跡と産業遺産」で、白井坂からスタートして、頌徳碑、虻田鉱山跡、栄2遺跡、高砂不道明王、フレナイチャシ跡、旭遺跡などを回りました。

参加者らは、各ポイントで三谷学芸員から説明を受けながら、その史跡にゆかりのクイズにも挑戦し、ウォークラリーを楽しみました。



虻田小学校の校庭で三谷学芸員から白井柳治郎氏の説明を聞く参加者

植樹やタオル寄贈のボランティア活動 ななかまどの会

6月12日、ボランティアサークルななかまどの会（坂井千枝会長、会員9人）が、洞爺湖温泉公園に桜の苗木6本を植樹しました。

毎年実施している行事で、今年は、洞爺湖が一望できる高台に会員3人が訪れ、作業を行いました。

同所は、以前桜の名所だったところで、「もう一度みんなで花見ができるようになってほしい」と会員らは思いを話しました。

植樹終了後、雑巾寄贈のため虻田中学校を訪問し、タオル



桜の名所を願って木を植えるななかまどの会員

で作った手作り雑巾100枚を同校の生徒に手渡しました。



早く走れるように熱心に練習する児童達

小学校の運動会を控え、洞爺湖スポーツクラブ（青木佐智子会長）が、5月

30日から5回シリーズで、毎週火曜日と金曜日に、虻田高校グラウンドを会場にして走り方教室を開きました。

最終回となる6月13日は、雨天のため母と子の館で行われ、児童約35人が参加。

新谷政照さんの指導で、10センチと25センチのミニハードルを使い、ひざを上げて歩いたり、横にまたいで移動するなどのメニューを繰り返し行い、上手に走れるコツをつかみました。

早く走れるようになったよ 走り方教室でコツを伝授



まちのわだい